

福島県立相馬高等学校創立120周年を迎えるにあたって ～5月7日の創立記念日に寄せて～

「本校は、1898(明治31)年5月1日に161名に入学を許可し、5月7日に始業式を行い出発しました。創立当時の校名は、『福島県第四尋常中学校』であり、安積を第一、磐城を第二、福島を第三、相馬を第四としたもので、県下でも有数の歴史と伝統のある学校として今日に至っています。」

以上、平成30年4月9日(月)の入学式での式辞で話したことの一部を掲載しました。

さて、4月27日(金)に行われました第34回若駒強歩大会は、急遽塩手山山頂を目指すコースが途中通行止めとなっていたため、磯部から大洲海岸道路を経由して、原釜・尾浜に抜けるコースに変更となりました。全行程は25.7kmという道のりです。

「相中相高百年史」を紐解いてみると、戦前(昭和20年以前)には、学校の授業の中に軍事教練という軍事教育が位置づけられていました。その中で、隊列を組み徒歩で長距離を移動・行進するという行軍がしばしば実施されていたようです。「1944(昭和19)年5月24日には、全校生徒、職員による行軍があった。目的は行軍軍紀維持や脚力の養成だったようだ。行程は山上街道より塩手山頂上をきわめ、八幡に下り、更に日立木、百尺観音を経て長友公園までの行軍であった。」という記述が百年史にみられます。塩手山のコースは古くから使われていたことがわかります。

また、1945(昭和20)年5月7日には、創立記念日より全校行軍を行った記事も見られます。その数ヶ月後、太平洋戦争が終結し、教育の民主化政策への転換の中で、軍事教練は終わりを告げました。

それから37年の時を経た1982(昭和57)年、第1回若駒強歩大会が11月2日に開催されています。本校の文武両道の教育目標の中で、新たな位置づけを与えられ心と体を鍛える「強歩大会」という学校行事がここに始まったものと考えられます。

今年度の大会での生徒の皆さんの走り、歩く姿を見るに付け、相高生の「克己」の精神を垣間見たような気がしています。

創立120周年という節目の年にふさわしい相高生の活躍を心から期待し、そして応援しています。

平成30年5月2日(水)
校長 長田 公雄